案

資料１

平成 25 年度

南丹市行政評価推進委員会報告書

平成25年9月

南丹市行政評価推進委員会

目　　次

１　はじめに ･･･ 1

２　行政評価推進委員会 ･･･ 1
（１）役　割 ･･･ 1
（２）構　成 ･･･ 1

３　平成２５年度外部評価の報告
（１）評価対象施策 ･･･ 2
（２）開催状況 ･･･ 2
（３）評価の視点 ･･･ 3
（４）評価結果の概要 ･･･ 4
（５）評価の結果 ･･･ 5

４　３ヵ年の評価結果の総括 ･････････････････････････････････････ 17
（１）３ヵ年の外部評価を通して ･････････････････････････････････ 17
（２）内部評価と外部評価の連携について ･････････････････････････ 17
（３）評価結果の施策への反映について ･･･････････････････････････ 17
（４）次期評価システムについて ･････････････････････････････････ 17
（５）市・理事者・職員への要望や提案などについて ･･･････････････ 17

５　おわりに ･･･ 18

１　はじめに

本委員会の外部評価の取組みは、総合振興計画に定める２３施策を３年間で評価することとしており、今年度は９施策（１３４事業）を市の内部評価資料に基づき、行政評価の視点と財政削減の視点から外部評価を行いました。

２　行政評価推進委員会

（１）役　割

施策の目的に照らし、施策に対する事業の貢献度評価をもとに、総合振興計画の実現に向けた施策・活動となっているか、市民への説明責任を果たせているかなど、改善点、必要性等について審議、評価し、改善すべき内容等を市長に提言します。

（２）構　成

敬称略　五十音順

氏　　名	所　　属　・　役　　職　　等	備 考
窪　田　好　男	京都府立大学公共政策学部　准教授	委員長
四　方　宏　治	ＭＡＣ京都公認会計士四方宏治事務所　公認会計士	
宮　本　三恵子	株式会社関西総合研究所　取締役・主任研究員	

３　平成２５年度外部評価の報告

（１）評価対象施策

章	節	施策名	構成事業数	関係部局
第１章　生涯充実して暮らせる都市を創る			**45**	
	第１節	安心して子育てできるまちをめざす	**45**	市民福祉部 教育委員会
第２章　自然・文化・人を生かした郷を創る			**29**	
	第２節 第５節	資源が循環するまちをつくる 伝統文化を継承する	**16** **13**	上下水道部 市民福祉部 農林商工部 教育委員会
第３章　人・物・情報を高度につなげる			**26**	
	第２節 第３節 第４節 第５節	鉄道をさらに便利にする 安全で快適な主要道路でつなぐ 誰もが安心な地域交通システムをつくる 双方向の情報通信基盤をつくる	**8** **10** **5** **3**	企画政策部 日吉支所 八木支所 土木建築部
第４章　共に担うまちづくりの仕組みを築く			**34**	
	第５節 第６節	未来を担う人づくりを進める 行財政改革を推進する	**5** **29**	教育委員会 企画政策部 農林商工部 美山支所 総務部 議会事務局 市民福祉部

（３－１は事務事業がないため評価対象としておりません）

（２）開催状況

会　議	開　催　日	内　　容
第１回 委員会	平成２５年 ７月　９日	○ 平成２５年度行政評価の取り組みについて ○ 平成２５年度行政評価推進委員会の進め方について ○ 評価方法オリエンテーション

第２回 委員会	平成２５年 ７月１２日	○　施策評価 ２－５　伝統文化を継承する ３－２　鉄道をさらに便利にする ３－３　安全で快適な主要道路でつなぐ ３－４　誰もが安心な地域交通システムをつくる ３－５　双方向の情報通信基盤をつくる
第３回 委員会	平成２５年 ７月２６日	○　施策評価 ２－２　資源が循環するまちをつくる ４－５　未来を担う人づくりを進める ４－６　行財政改革を推進する
第４回 委員会	平成２５年 ８月　７日	○ 施策評価 １－１　安心して子育てできるまちをめざす
第５回 委員会	平成２５年 ８月２７日	○ 平成２５年度外部評価の総括 ○ 平成２５年度行政評価推進委員会報告書 ○ ３ヵ年の評価結果と総括

（３）評価の視点

評価は、施策、事業ごとにヒアリングを行い、その中で質疑、意見交換を行いました。施策ごとに総合的に判断して、事務事業の数や内容を判定して、次の「外部評価の視点」から具体的内容等を提示指摘しました。

【外部評価の視点】

区分	視　　点
行政評価の視点	個別の事務事業について、政策体系と照らし合わせながら、事務事業の目的と実績（成果）等を目的、妥当性、有効性、効率性、公平性で評価し、改革改善案を提示する。
財政削減の視点	既存事業の効率化、整理合理化、廃止及び事業費の削減並びに、現時点における行政ニーズを明らかにして、評価結果を基に事業の効率的な運営と資源配分の具体的案を提示する。

（４）評価結果の概要

地方公共団体を取り巻く状況は大変厳しいものがあります。南丹市においても少子高齢化が進み、地域経済が低迷を続ける中で、大変厳しい財政状況下にあります。そのような中で、総合振興計画に掲げるまちづくりを実現するため、施策の推進にはそれぞれの事業に対する評価結果が反映され有効に活用されることが重要であると考えます。

そういった観点から、本委員会の外部評価を通じて感じたことを今後の期待と課題として述べたいと思います。

ア　総合振興計画に掲げるまちづくりの実現に向けて

限られた財源の中では、総合振興計画の着実な実行を図るためには、これまで以上に市長の強力なリーダーシップ、施策推進における理事者と幹部職員との意思の疎通と情報共有、決定を確実に遂行する組織体制が必要と考えます。

イ　施策体系と事務事業の見直しについて

総合振興計画の施策体系について、現況の体系では施策の編成に偏りがあり、施策を推進する上で部局間の調整等が図れないものがあり、検討する必要があると考えます。また、施策の方針と目標のあり方、それを実現するための事務事業との整合性も十分精査する必要があります。

ウ　事業評価表の記載内容について

評価表を通じて、事業の目的や成果、要したコストなどにより、市が行った仕事をわかっていただくことにありますので、常に行政評価の目的・成果を意識して評価表を作成し評価に臨むことが必要と考えます。

エ　大学や民間等との連携について

限られた財源と職員数の中で、市民のニーズに応え、より質の高い成果を提供するためには、大学や民間等と連携し活用を検討いただきたい。

オ　旧町からの継続と旧町名を冠した事業について

合併後７年が経過した今なお、旧町の事業や施策がそのまま引き継がれ実施されています。その事業が今一度必要か調査と検証を行い、施策の目的に照らし、費用対効果を検証して、事業の整理・統合・削減が必要と考えます。また、旧町名を冠し地域限定の事業については、全市を対象とした事業とするなど、改善が必要と考えます。

（５）評価の結果

政策	**第2章　自然・文化・人を活かした郷を創る**
施策	**第5節　伝統文化を継承する**

評価項目	評価区分
行政評価の指摘	・　事業№659「文化財維持管理費」について、市が全額単費で負担していくのであれば、公共的な価値があるという位置付けをもっと打ち出す必要があるし、観光客等の負担もあり相殺されているのかも知れないが、放水銃の設置から維持管理まで市でというと少し違和感があるので、一部地元にも負担していただくのも必要ではないか。 ・　事業№648「施設管理運営費」、649「展示会事業」、651「調査研究事業」の目的からすると必要な事業が展開されている。文化博物館は、調査し保全した資料などで、市民のリピーターを多く作り、地域の一体性を生み出し新たな南丹を作るために活用することも検討いただきたい。 ・　事業№648、649 について、市民の中で歴史・文化等に長けた方に協力してもらい一定の組織化をして、運営、企画面など継続した関与を行えば、質的にも市民の方からも興味が広がり運用面でも組織に任せたら少しでも財政的には効果がでるのではないか。
歳出削減の提案	・　事業№648、649、651 若者が訪れるように展示を工夫すれば費用が削減できるのではないか。 ・　若者が自分たちのアイデンティティを確立するために、行政の人的資源は使い、広くアピールするところは、外部を使って人件費の費用削減ができないか。 ・　事業№653「資料購入費」を一時的に停止することが考えられる。（この事業は行政評価の視点から見るといい面もある） ・　事業№664「埋蔵文化財発掘調査事業」を縮小する。 ・　大規模にカットする場合は文化博物館と日吉町郷土資料館を１つにして、文化博物館だけにする。

政策	**第3章 人・物・情報を高度につなげる**
施策	**第2節 鉄道をさらに便利にする**

評価項目	評価区分
行政評価の指摘	・ 鉄道とまちづくりについて、どこが担当部署になるかはとても難しいが、この事例は非常にバランスが取れていて、事業№108「胡麻コミュニティセンター管理運営費」の事業貢献度評価はＣＣになっているが、高く評価している。 ・ 事業№112「園部駅西口広場自転車等駐車場事業」の駐輪場の方にもっと回数を増やしてパトロールをしてもらい、撤去した自転車の返却時の手数料などの一部を指定管理の収入とするとか考えられないか。 ・ 事業№116「山陰本線南丹市広告宣伝事業」で、京都駅にも液晶が出来ているし、京都市の地下鉄も中吊り広告のスペースがあるので、近くの方に来てもらう発想も利用客増には大事かなと思う。 ・ 海の京都構想というのを京都府と舞鶴市などを中心にされている。高速や鉄道を使って京都北部を観光拠点にしていこうとしているので、南丹を通る方に対してアピールする活動も次年度に向けては大事だと思う。 ・ 過疎化の地域で必ず出てくるのは交通の問題と移動手段と物を買う場所の問題があるので、胡麻駅や日吉駅で高齢者に配達サービスしたりするニュービジネスを地元でやる人に無料で渡すというのはどうか。
歳出削減の提案	・ 事業№112「園部駅西口広場自転車等駐車場事業」で、指定管理をした限りは一定の目標を持って、少しずつ力をつけて利益を上げていくように契約をもっていかないと指定管理の意味がない。 ・ 事業№107「日吉駅交流センター管理運営費」、108、109「鍼灸大学前駅管理運営費」は、いずれも地域のセンターになっていて非常に大切な機能になっていると思うが、すぐにはできなくても指定管理と一緒で、年々目標値を決めて改善していって、５年後には完全に収入でまかなうというような目標を持って、かつ地域の活性化にも役立てていく、そういうやる気のある人材を入れていくような形が必要。

政策	**第3章 人・物・情報を高度につなげる**
施策	**第3節 安全で快適な主要道路でつなぐ**

評価項目	評価区分
行政評価の指摘	・ 事業№831「都市計画街路事業」、842「道路新設改良事業」、446「道路・橋梁維持管理事業」について、限られた財源のため重要度の高いものから行う必要がある。 ・ 新しい道路を作るより、今ある道路・橋梁の安全のほうが重要なので、計画的に必要なもの、また必要なものが多すぎるようなら、優先順位を付けて計画的に対処していく必要がある。 ・ 南丹市の特性として、自転車でのツーリングが多いので安全確保のため、看板などで恒常的に自転車が走っているというのを通過交通している人に知らせる必要がある。 ・ 道路の新設というのは、これから慎重に検討していく必要があると思う、国から予算が付くからと言って安易に作るのは、１００％国負担でできるわけではないので、今までかなり投資をしているので、既存のものを維持しないといけないし、大事なところから行っていく。 ・ 道路改良率が目標値を超えているように、市内の道路整備の要望は多くあるが、随分便利になっている。そのため通過時間が早くなるので、それに見合った交通安全対策にお金をかけないでしたほうがいい。 ・ 道路が整備されるとスピードがあがり事故が起きやすくなるので、そういったことへの対策も道路の維持管理のところで重視してほしい。
歳出削減の提案	・ 安全の確保で絶対に必要な部分以外の新設等を凍結して、なるべく支出を減らしていくことが必要。 ・ うまく補助金を獲得してほしい。

政策	**第3章　人・物・情報を高度につなげる**
施策	**第4節　誰もが安心な地域交通システムをつくる**

評価項目	評価区分
行政評価の指摘	・　多面的に効果を考えるべきだが、１人あたりのデマンドバスのコストが大きいのでもう少し縮小するとか、同じような効果を費用は減少して別の方向で実現できないか。例えば、タクシー事業への補助金などについて、今後も研究をお願いしたい。 ・　ニーズを作ってみんなを乗せて、一人で病院に行くとか一人で買い物に行くとかじゃなくて、４、５人乗せて皆で行きましょうとすると、費用は同じだけかかっても１人４万円というのがどんどん減っていく。ニーズとのマッチングで、デマンドバスが有効に活用される方法を考えていただきたい。これは行政が考えるよりも地域が考えないといけないかもしれない。 ・　美山で大きな市バスが止まっていて、もったいないなと思うこともあるので、次に更新されるときにもう少し小さいバスにして、昼間はデマンドバスにすると経費が下がるのではないか。
歳出削減の提案	・　デマンドバスをストップさせる。これは財政削減の視点なので直ちにデマンドバスをやめてくださいということではない。大きく歳出抑制を図る場合にこの施策の中からやむを得ず削るならどういうことが考えられるかという提案です。

政策	**第3章　人・物・情報を高度につなげる**
施策	**第5節　双方向の情報通信基盤をつくる**

評価項目	評価区分
行政評価の指摘	・　テレビは情報基盤をもつという目的なので、合併した地域の一体性を作っていく上で果す役割は大きい。 ・　地デジのアンテナ整備のほうが合理的ではないかと指摘したが、ケーブルテレビのほうが有効だろうという結論になった。そうなるとケーブルテレビの充実が重要なので、撮影スタッフの限界もあると思うが、市民や大学、高校と協働して低コストで多様な番組をされてはどうか。例として、南丹市が提携している佛教大学を使うとか、学生を活用するとか、佛教大学の先生に出ていただいて放送大学的なことをするとか、お金をかけず、出たい人に出てもらったらいいのではないか。番組は府立大学でも興味を持つ人は多いと思いますし、大学は結構喜ぶのではないか。大学のイメージアップや受験生の増加につながれば大学にも有益である。立命館にも映像系の学部を持っている。南丹から外に出て行った人を追いかけて番組を作って、活躍していますみたいなものを作ったら、地元の人が見ても嬉しいかもしれない。
歳出削減の提案	・　特に言うことはないが、できるようであればケーブルテレビの委託費を削減する。

政策	**第2章　自然・文化・人を活かした郷を創る**
施策	**第2節　資源が循環するまちをつくる**

評価項目	評価区分
行政評価の指摘	・　施策そのものの設計として、ごみの処理と上下水道という大きなものが１つにまとまっていて、事業の細かいところが見えにくい構造になっているので、計画の立て方として分けるということも考えられるのではないか。中身は概ね妥当だというものが多かった。個別の指摘も踏まえて今後もよい上下水道の経営をしてほしい。ごみ処理は現状がいけないということではないが、もう少し内容を見えやすく、また地域にあった対策を進めていただけたらと思います。 ・　社会的な目標を掲げて行政もがんばって達成するのは大事だとされているが、情報が入って来ないのは厳しい。リサイクル業者に回収量について、よほどの商売上の都合がない限りは、地域全体の取組を進める上で情報をもらえて追跡できるようにしたほうがいい。 ・　事業№372「地域バイオマス利活用事業」について、事務事業評価的にこの事業の全体像が調書から見えていないのが問題。見えるように作らないといけない。 ・　事業№372 の施設を更新するかどうかは慎重に検討する。やめることによって新たに出てくる課題のことも考えて。更新あり気ではない検討が必要。
歳出削減の提案	・　リサイクル回収について、民間活用して行政の手から離れるならそれに越したことはないので、民間の回収が増えて行政がやらなくて済むようになるなら補助金も必要なくなるのではないか。

政策	**第4章　共に担うまちづくりの仕組みを築く**
施策	**第5節　未来を担う人づくりを進める**

評価項目	評価区分
行政評価の指摘	・　人づくりを進めるという施策をあえて立てて進めているのは特色だと思う。メニューは他の自治体にもある場合が多いもので、そういうのを例えば農業のところに農業の人づくりをいれたりしているが、人づくりという施策をたてるのはいいと思うが、実態として１つのコンセプトでまとめられているかと言えば、すべて教育委員会の指揮のもとで動けていないのではないか。せめて連携して、うまく人づくりをやるということでコーディネートする、意見交換することがあってもいいのではないか。あえて施策としてたてる以上はそういう取組がほしい。結局別々のところでやっているなら残念なこと。施策としてこの項目を立てているのは、野心的でチャレンジだと思うが、実態として調整されているように思えない。 ・　国際交流について、京都市内の大学の留学生との交流など、美山と提携している佛教大学や留学生が多そうな京大、立命などの大学とうまく話をされて、そこの留学生に来てもらうということも考えられる。施策の方針の２は南丹市内の大学ということだが、もう少し広く大学との連携としても考えられるかなと思います。 ・　国際交流事業に関して、地域の既存団体に対する委託事業は仕様書でがんじがらめにしないで、企画にゆとりを持たして、発想力を掻き立ててもらえるような委託の仕方をしていただくと、大学からのオファーもあったりするのかなと思います。あまり行政の方で決め付けないでうまくやっていただきたい。 ・　事業№94「美山まちづくり委員会支援事業」について、仕組み、進め方や成果についてはよいと思うが、参考までに京都の佛教大学を含めた大学で地域課題を事業カリキュラムに取り組むことを北部連携という略称で文部科学省から補助金をもらってやっている。地域課題を把握する、提言するプロセスに佛教大学の生徒や先生が入ってくる気運があるので、ぜひ佛教大学とも組んでいただいたらもっと成果が出るのではないか。 ・　まちづくり委員会を作って、地域課題を正面から当たってもらうのと、出来上がって立ち上がるから支援するのと、出来上がっていろいろなことを自由にやってもらうのと、いろいろな段階を持って、地域でこうやってステップアップして次のステップはこうだと見えるほうが施策効果もあが

	るのではないか。また、事業名に旧町名が残っているので、本当は他の地域でもこういうことがあったら、この事業が活用できるというような状態の制度設計にしておくほうがそろそろいいのではないか。 ・　新規就農者の受入について、集落単位で自発的に新規就農者の受入れの取組をされるなら、支援するというのがあってもいいと思う。舞鶴市の西方寺というところで１０世帯あって半分が４０代以下の若い人で最初の方がうまくＰＲして後の人を引っ張りこんだりされているようです。市の支援を得て空いた家を使ってゲストハウスを自力で作って、ここで書かれた事業のようなことを手作りでされている。南丹市は集落支援で人も配置しているので、どこかの集落が自力たちでやろうかみたいなことが出てきたらいい。集落単位で就農者を迎え入れませんかと声かけするのも大事かなと思う。また、京都府内の大学からよさそうな人を引き抜いてくるというのも大事かなと思う。 ・　事業№618「成人式開催事業」について、より効果的にやってもらえたらいいと思う。せっかく集まる機会なので、わーと騒ぐだけでなく、地域を担っていただくという目的も含めてやっていただけたらと思います。
歳出削減の提案	

政策	**第4章　共に担うまちづくりの仕組みを築く**
施策	**第6節　行財政改革を推進する**

評価項目	評価区分
行政評価の指摘	・　「行財政改革を推進する」については、いずれ大きく施策の体系を作るときには工夫していただきたいというのが、1番大きな指摘だと思います。 ・　事業№16「市表彰費」について、お金じゃなくても褒められたら嬉しいので市民のやる気を引き出すこともいいと思う。 ・　議会がここに含まれているのが特別な感じがしますが、議会の活動をより活発にしていただくという主旨から政務調査費をなくす議会もあるが、あることは評価すべきだと思う。調査ということでうまく使われることを期待したいのと議員の方が自治にかかわる政策や制度を調べることについて、使い易い制度に法律の範囲内でしていただきたい。この機会に使いにくい点などを洗い出して見直しをされてはいかがでしょうか。 ・　事業№138「選挙管理委員会運営費」について、他市に比べて報酬が低い水準にあるのは間違いないが、行政評価の視点では、なる方がいないとか、運営上困っていなければ、このままいけないかということになる。 ・　事業№14「職員研修費」について、職員研修は非常に重要なので、１つのアイディアとしては職員でグループを作って研究をするなど自主的な活動に補助する制度などがあれば費用対効果的にはいいと思う。今すぐそのような活動ができなくても制度だけでもあればいいのではないか。また庁内講師の活用、講師の紹介、外部からそんな人を紹介するとかでもいいと思う。学んだり考えたりする機会を作って刺激していくことをしていただきたい。大学との共同でお金かけずに協力できないかということであれば我々大学もそういうことをしたいという考えを持っていますので協力できることがあるのではないかと思っています。

歳出削減の提案	・　行政評価の視点で広報誌と議会だよりをやめることにはならないが、どうしようもなくなったら、ケーブルテレビに注力してはどうか。ケーブルテレビの制作費もいると思うしまったく全部カットはできないと思うが、かなりの部分で代替できるのではないかという提言をさせていただく。 ・　事業№16 について、賞状や式はするがお金はかけないのもいいと思います。 ・　政務調査、議会だより、広報誌を作るにはクリエイティブなひらめきみたいなものにもよるところがあるので、融通が利いたほうがいいと思う。政務調査費も法律の範囲内で融通が利くようにしてほしい。広報誌にここで触れたのは、先ほど財政削減の視点で言いましたので、少し削ろかと予算を削減して使い勝手を悪くするのであれば、必要だというのなら何%削るとかではなしに担当者の使い勝手のいいようにしていただきたい。削るのなら全部やめてケーブルテレビにできる範囲で移行するほうがいいと思う。 ・　事業№138 について、正直、日常の業務はそんなに重くないが、責任は重いものなのでいざというときにはどうかと思うが、財政削減の視点でその事務ができているのであれば我慢していただくしかない。

政策	**第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る**
施策	**第1節 安心して子育てできるまちをめざす**

評価項目	評価区分
行政評価の指摘	・ 政策はわかりやすいスローガンがあったほうがわかりやすいし、普及もする。地域全体で子育てを支援するというともっと内実をうまくつかんで、かつ皆がその気になるようなキャッチコピーがないかなと思う。 ・ この施策で気になるのは、かなり多様でターゲットの幅も広いので、南丹市が考える理想が少ないかなと思う。いろいろな指標がでていないとわからない。ターゲット別にもう少し細かくあったほうがいいと思う。 ・ 理想が見えてそのためにやる事業を選択し有利な補助金等は活用してやっていかないといけないと思った。事業ありき、補助金ありき、国の施策ありきではなくて、それを受けて南丹という地域の特性を踏まえてどう活用していきたいのかが見えない。 ・ 施策の方針が１、３～６があって、全部子育て支援でくくってしまうのがいいのかどうか。そういう視点からすると、子どもにとっての育ちの場の施策はもっと違うところであるというならいいが、この中に入ってしまっているなら、そこは切り分けたほうがいい。 ・ アンケート調査について、行政のイメージと、市民のイメージにすごくギャップがある。地域で子育ての市民のイメージでは、隣の家が出かけるから子どもを預かるというのになるので、そうなると全然達成できていないという話になる。次にアンケートを出す場合は聞き方を考えてもいいかもしれない。例えば、「どっちかというと行政の事業は手厚いか」とか「行政や民間にいろいろ相談できる」や「使えるサービスが多様にあると思うか」が内情に近いと思う。 ・ 事業№650「体験講座開設事業」は、中身的にはいいことだと思うし、費用についても高すぎるとかはないが、どっちかというと、「未来を担う人づくりを進める」とか、「伝統文化を継承する」のほうがふさわしい気がする。 ・ 現金給付について、どういった効果を発揮しているか、何かの機会に研究することが必要では。外部への委託や大学の力を使うのもいいと思う。 ・ 現金給付について、地元への経済効果が当初はあったが、今はほとんどない市内でだけ使えるのも困るというのもあるのかもしれないが、単にお金をあげるよりも品物であるとか市内で使える買い物券とかでもいいのではないか。

	・　高校生以上になると親の経済的負担も大きくなるのに日本は奨学金制度が貧弱なので、ここの子育て手当支給事業の原資をうまく使ってはどうか。 ・　子育て医療や現金給付について、特色ならもっとアピールすべきだし定住促進に使える。他市でも似たようなことをされていて子育て部分に多くお金を投入して、それをアピールして定住者を呼ぼうということをされているところもあるので、どうせお金を使うのであればそういうやり方ができるのではないか。 ・　保育所で労働の実態に応じて夜間・土日の対応をできたら喜ばれると思う。市外で働いている人のニーズに合わせた保育もできるようにすると、引っ越す人も増えるのではないか。また、民営化する必要はないかもしれないが、ある部分のサービスだけ外部に委託するとかＮＰＯに頼むとか、フルに行政でするのはやめたほうがいい。 ・　小学生、特に低学年の子どもについても、安心して子育てできるまちをめざすということでいうと、安全、安心して暮らせる状況、また塾、習い事があったら住みたいという方もいらっしゃると思うので子育てのまちづくりではポイントになると思うので、研究してほしい。 ・　地域として子どもを育てるというのはどんな風にやっていきたいのか。メニューが充実しているからこそソフトの部分でどうしていこうというのを議論できるようにしていますとしてほしい。受け手のニーズやみんなで一緒に考えたほうがいいことが考えられているのかなというのが気になります、そういったことが事業としてないように思います。
歳出削減の提案	・　子育て医療について、政策的な意図を持ってされているならありですが、２，４００万円ほど年々かかっていることを思ったら、財政削減の視点では、減額やなくしてもやむを得ないのではないか。 ・　子宝祝金や入学祝金などの現金給付は、財政削減の視点ではなくすか減額すべき。

４　３ヵ年の評価結果の総括

２期目の外部評価に入り、評価委員の数が３人という少数になったことで、より密な議論が可能になり、３ヵ年に渡り２３施策を評価してまいりました。施策、事務事業については、不必要なものはあまりなかったと考えますが、より良い事務事業とするための観点から行政評価の視点と、財政削減の視点で提案をしました。これまで行った外部評価が総合振興計画の推進に寄与するとともに、今後も外部評価を継続し、より一層充実していかれることを期待して、この総括が次期評価制度の参考となることを願います。

（１）　３ヵ年の外部評価を通して

（２）　内部評価と外部評価の連携について

（３）　評価結果の施策への反映について

（４）　次期評価システムについて

（５）　市・理事者・職員への要望や提案などについて

５　おわりに

これまでに引き続き我々３名が７月から８月にかけ計５回の外部評価推進委員会を開催し、ヒアリングにおいて行政評価の視点による指摘や、財政削減の視点による提案を行いました。この評価結果やヒアリングの中での気付きを参考にしながら、総合振興計画に掲げる「森・里・街がきらめくふるさと　南丹市」を実現するため、施策と事務事業を進めていただくことを期待します。

また、今後の見通しを踏まえ財政の縮小再編が喫緊の課題であるため、事務事業の見直しは避けられない状況です。必要性や有効性がある事業でも調査と検証を重ね、取捨選択を行い廃止・縮小する必要があります。そのような中でも市民の満足度を高めるため、佐々木市長のリーダーシップの下、南丹市職員一丸となって市民ニーズを的確に捉え、効果的な事務事業を執行し、限られた財源の中でより一層の成果の向上に努められようお願いします。

本報告書は、限られた時間と議論の中で、多くの施策と膨大な事務事業が対象ではありましたが、取りまとめたものです。今後この報告書が、職員皆様の施策遂行と意識改革の一助になり、市民全員の幸せに寄与することができましたら大きな喜びです。

我々の委員としての任期は９月までではありますが、今後も南丹市の行政評価の取組が継続され、より一層充実し発展することを期待します。

最後になりましたが、評価の過程で対応いただきました職員の皆様に委員一同感謝申し上げます。

南丹市行政評価推進委員会

委員長　　窪　田　好　男

委　員　　四　方　宏　治

委　員　　宮　本　三恵子